



当院のリハビリ療法④ ～ 言語聴覚療法 ～

言語聴覚士という呼び方は、まだ比較的新しく、皆さんにはあまり知られていませんが、一般的に聞かれるようになったのは、1997年に言語聴覚士法が制定されてからです。そして、1999年に初の国家試験が行われることにより、日本初の言語聴覚士が誕生しました。そのような面では「理学療法」「作業療法」と比べてまだまだ歴史が浅い療法といえます。

では実際に「言語聴覚療法」がどのようなものかと申しますと『コミュニケーションに障害を持った患者様が、意思疎通を円滑に行えるようにするためのリハビリ』とだけ思えば少しイメージしやすいと思います。ここで『コミュニケーション＝ことばによるものだけではない』ということに気を付けなければいけません。コミュニケーションという単語を辞書で調べますと「意思や概念、感情といったものの伝達と相互理解」とあります。私たちがコミュニケーションを成立させるためには、相手に情報を伝達する方法が必要です。自分の考えていることを相手に伝えるために、私たちはいろいろな手段を使っています。そして、相手から発信された情報をきちんと受け取り、それを理解するというのも大事な能力です。私たち言語聴覚士は、脳の損傷や事故などの後遺症、その他の病気などにより、相手に情報を伝達するための方法や伝達された情報を正しく理解する機能が障害された方に、以前の能力を取り戻せるよう訓練プログラムを考えてリハビリテーションを提供しています。相手に情報を伝達するための手段には、①ことば(音声・文字) ②身振り ③表情や雰囲気 ④絵を描く などいくつかの方法がありますが、私たちが初めて患者様と会う時は、「ことば(に対して)のリハビリ」という表現を使用して自己紹介しています。

おそらくこれを読んでくださっている方のほと

んどは「相手に自分の意思を伝える」「ことばを話して理解する」ということをごく自然に、当たり前の行為として考えていると思います。しかし実際に、その自然で当たり前の行為が障害されることで、それまで考えもしなかったような苦勞をしている方がいます。自分の思いがうまく伝わらないために、人と会うことに消極的になってしまう方もいます。そんな方々が言語聴覚療法によって自分に自信を取り戻し、日々の生活を笑顔で送れるようになることが、私たち言語聴覚士の目標でもあります。



看護の日

日時：平成24年5月10日(木) 午後1時～

場所：琵琶湖中央病院5階多目的ホール

テーマ：『知っていて役立つ健康体操』

転倒予防体操・相談コーナー・ティータイム…

いきいき健康教室

インフルエンザ流行のため延期になりました『いきいき健康教室』を開催します。

日時：平成24年6月9日(土) 午後1～4時

会場：琵琶湖中央病院5階多目的ホール

プログラム1 血圧測定・骨密度測定
健康相談コーナー

プログラム2 ボランティアグループ『湖風会』
箏と尺八演奏

プログラム3 健康のためのお話

- (1)「認知症との上手なおつきあい」
- (2)「生活習慣病と毎日の生活 い・ろ・は」
- (3)「高齢者のための食事の工夫」

《お問い合わせ》琵琶湖中央病院 地域連携室

☎ 077-526-2131